資料１

（１）令和４年度地域公共交通確保維持改善事業（フィーダー計画）に関する事業評価について

【概要】

国の補助事業を活用した事業について、次年度又は将来の事業をより効果的・効率的に実施するために、事業の実施状況等を振り返り評価するものです。

地域公共交通確保維持改善事業（フィーダー計画）はコミュニティバスの運行に対する補助です。

バス年度令和４年度（R3.10～R4.9）コミュニティバス運行に係る事業に係る評価は、目標値 22,575 人に対し 22,346 人の利用実績（99.0%）となっています。

■利用者数一覧

路線名	R4 目標	R4 実績	目標達成度	R3 実績（参考）
上九瀬線	8,562	8,856	103.4%	8,473
鷆野循環線	700	498	71.1%	531
岡原循環線	784	654	83.4%	830
種畜牧場循環線	1,967	1,518	77.2%	1,910
南ヶ丘線	900	740	82.2%	842
環野－千歳線	1,046	1,020	97.5%	976
運動公園循環線	1,234	774	62.7%	890
深草循環線	764	521	68.2%	506
大出水循環線	1,192	1,279	107.3%	1,320
三松循環線	5,326	6,376	119.7%	5,663
上原循環線（※）	100	110	110.0%	149
合計	22,575	22,346	99.0%	22,090

※令和３年 10 月から令和４年３月までの実績。令和４年４月より上九瀬線と統合。

全路線において、新型コロナウイルス感染症による外出自粛等（高齢者の病院受診控えの増加等）の影響により、コロナ禍前と比べ全体的に利用者が減少傾向となっています。

外出自粛等の影響を大きく受けているため、利用状況及び利用者のニーズ等を細かに分析し、利用者増を図ることによってフィーダー系統の維持・確保に努めていきます。

以上の事業評価をまとめたものが資料１－２となります。

小林市地域公共交通活性化協議会　（宮崎県小林市）

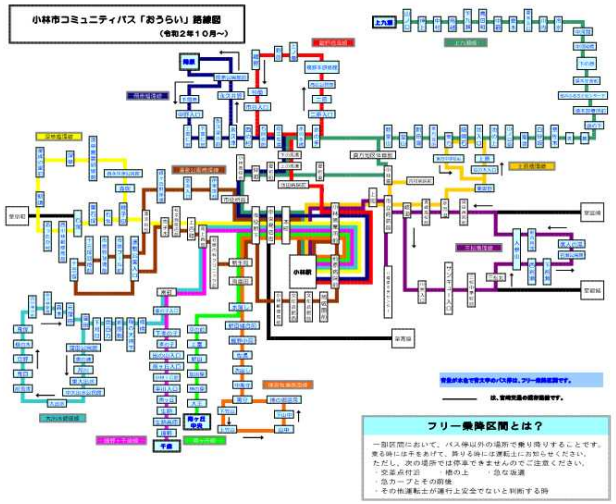
事業名：令和4年度地域内フィーダ系統

資料１－２

概　要

【名称】のりやいバス
「おうらい」

コミュニティバス「おうらい」路線図



運行主体：小林市
運転：宮崎交通㈱

本市は、鉄道および路線バス、コミュニティバスの公共交通機関網が広がっている。
鉄道は、日豊本線に接続する都城駅と肥薩線に接続する吉松駅を結ぶ61.6kmのJR吉都線が市内を通っており、主に通学の手段として利用される。
路線バスは、市街地と隣接するえびの市、高原町だけでなく、宮崎県の中核である都城市や宮崎市とを結ぶ重要な幹線系統バス路線としての役割を果たしている。
コミュニティバスは全１１路線あり、上記の鉄道及び路線バスに接続し、中心市街地と中山間地域等とを結ぶフィーダー路線としての役割を担い、交通弱者の生活にとって必要不可欠な移動手段として機能している。

基礎データ

○合併状況：平成18年3月に1市1村（小林市、須木村）が合併
　　平成22年3月に1市1町（小林市、野尻町）が合併
○人口：43，598人（令和4年12月1日現在現住人口）
○面積：562．95㎢
○過疎地域等指定：あり（旧須木村、旧野尻町の地区）
○高齢化率：37．50%
○系統数：11系統（確保維持事業のみ）
○自治体負担額：令和元年度：19，513千円、令和2年度：20，677千円
　　令和3年度：18，977千円
○協議会開催数：令和元年度：3回、令和2年度：2回、令和3年度：4回

計画、目標（Plan）

本市は、市民の多様な移動ニーズに対応すると共に、持続可能な地域公共交通体系の構築を目指している。令和4年度から令和8年度までを計画期間とした「小林市地域公共交通計画（令和4年3月策定）」に基づき、地域公共交通の確保を図っている。なお、この計画は、将来のまちづくりの指針である「第2次小林市総合計画」と密接な連携を図るものである。

生活交通確保維持改善計画等の取組み（Do）

生活交通確保維持改善計画に沿ってコミュニティバスの運行を実施し、路線の維持を図った。
利用促進活動として、広報紙に公共交通の記事を掲載した。また、毎年開催される秋まつりのパレードなどにおいて、来場者にコミュニティバス時刻表を配布したり、乗り方教室や無料乗車の日の開催により市民への周知を行う予定であったが新型コロナウイルスの影響により実施できなかった。

実施状況、目標の達成（Check）

R3.10～R4.9の目標利用者数を100%とした基準で達成度を示す。※括弧内は、実績利用者

上九瀬線：103.4 % (8,856人)	鷦野循環線：71.1% (498人)	岡原循環線：83.4% (654人)	種畜牧場循環線：77.2% (1,518人)	
南ヶ丘線：82.2% (740人)	環野・千歳線：97.5% (1,020人)	運動公園循環線：62.7% (774人)	深草循環線：68.2% (521人)	
大出水循環線：107.3% (1,279人)	三松循環線：119.7% (6,376人)	上原循環線：110.0% (110人)	合計：99.0% (22,346人)	

前年度と比べると大きく増減していないが、コロナ禍前の令和元年度と比較すると新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う外出・移動制限の影響により、利用者数は大きく減少している。
※参考：令和元年度25,783人、令和2度22,090人

今後の課題、対応（Action）

・利用率の低い路線を中心に見直しを検討し、フィーダー系統路線の維持・確保に努める。
・地域住民のニーズを把握し、要望を路線に反映する。
・利用者が固定化されている傾向があるため、その利用者が種々な理由で利用できなくなった場合、利用者数の減少が進んでいくことが想定される。そのため、広報紙やイベントを通じてPRを図るほか、他の交通サービスとの連携強化など、新たな利用者の増加につながる取組について検討を続ける。

別添1

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

令和5年1月25日

協議会名：小林市地域公共交通計画

評価対象事業名：陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業（地域内フィーダー系統）

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）
小林市	小林ー上九瀬線	様々な機会において、利用促進を図った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	目標8562人に対して8856人であった。	須木区域唯一の路線であり、通学で利用している利用者がいるため、維持・存続が不可欠である。区域住民と連携して新規利用者の開拓を図り、引き続き利用者増加に向けた取組を行う。
小林市	小林ー鰐野循環線	様々な機会において、利用促進を図った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	C	目標700人に対して498人であった。	運行経路の見直しやダイヤ改正等により、地域のニーズに沿った路線への転換を図る。
小林市	小林ー岡原循環線	様々な機会において、利用促進を図った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	目標784人に対して654人であった。	時刻表の配布やイベント時のPR活動、広報紙を活用した意識啓発活動によって利用促進を図る。
小林市	小林ー種畜牧場線	様々な機会において、利用促進を図った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	C	目標1967人に対して1518人であった。	運行経路の見直しやダイヤ改正等により、地域のニーズに沿った路線への転換を図る。
小林市	小林ー南ヶ丘線	様々な機会において、利用促進を図った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	目標900人に対して740人であった。	時刻表の配布やイベント時のPR活動、広報紙を活用した意識啓発活動によって利用促進を図る。
小林市	小林ー環野ー千歳線	様々な機会において、利用促進を図った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	目標1046人に対して1020人であった。	時刻表の配布やイベント時のPR活動、広報紙を活用した意識啓発活動によって利用促進を図る。

協議会名：小林市地域公共交通計画

評価対象事業名：陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業（地域内フィーダー系統）

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）
小林市	小林ー運動公園循環線	様々な機会において、利用促進を図った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	C	目標1234人に対して774人であった。	運行経路の見直しやダイヤ改正等により、地域のニーズに沿った路線への転換を図る。
小林市	小林ー深草循環線	様々な機会において、利用促進を図った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	C	目標764人に対して521人であった。	運行経路の見直しやダイヤ改正等により、地域のニーズに沿った路線への転換を図る。
小林市	小林ー大出水循環線	様々な機会において、利用促進を図った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	目標1192人に対して1279人であった。	様々な機会において、利用促進を図ったことにより目標値を達成した。引き続き、地域のニーズ把握に努め、利用促進を図る。
小林市	小林ー三松循環線	様々な機会において、利用促進を図った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	目標5326人に対して6376人であった。	複数の病院や商業施設を経由する路線であり、主要施設を循環するバスとして維持・存続が不可欠である。引き続き、イベント時のPR活動、広報紙を活用した意識啓発活動によって利用促進を図る。
小林市	小林ー上原循環線	様々な機会において、利用促進を図った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	目標100人に対して110人であった。	運行日の見直し等を実施したことにより目標値を達成した。引き続き、地域のニーズ把握に努め、利用促進を図る。

別添１－２

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和5年1月25日

協議会名：	小林市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名：	小林市地域内確保維持改善計画

地域の交通の目指す姿 （事業実施の目的・必要性）	当市の公共交通は、JR小林駅に隣接する小林市地域・観光交流センターを公共交通拠点として、そこから発着する路線バス、コミュニティバス及びJR吉都線により構成されており、宮崎市、都城市、えびの市、高原町へ広がっている。また、宮崎市及び都城市の医療機関・大規模商業施設へのアクセス、通学等、住民の日常生活機能を担う幹線交通網を利用する手段として、高齢者や学生を中心に、生活に必要不可欠なものとして利用されている。 路線バスが運行していない交通空白地域では、フィーダー系統路線としてコミュニティバスが幹線交通網に通じる支線の役割を果たしている。しかし、自家用車の普及、65歳以上の免許保有者の増加、少子化による通学利用者の減少により、当市の公共交通機関利用者は減少し続けている。 これらの問題を解決するため、地域公共交通確保維持事業を活用し、コミュニティバス路線を確保・維持することで、交通手段を持たない住民の生活交通手段を存続させていくことが必要である。